



横須賀商工会議所
6次産業化を応援!

■「産農人」とは農作物をつくるだけでなく、市場ニーズを理解し流通させることのできるマーケットセンスを持った新しい農業人を表す造語。横須賀商工会議所と地域の農家・加工業者・飲食店・メーカーが一丸となって、将来の農業を担う有用な人材の育成に取り組んでいます

「農業の未来」明るく照らす若い力

高齢化、耕作放棄地、不安定な収入と農業にまつわるネガティブな印象を一掃するような取り組みが横須賀で進められている。「産農人育成プロジェクト」。産業としての農業の可能性に高校生が挑戦し、地元経済界が支える未来志向の取り組みである



林にある「鈴也ファーム」が実習の場。「産農人」メンバーの学ぶ姿勢は真剣そのもの

入講式から間もない4月中旬。最高気温が25℃以上となり、夏日となった。入講式から間もない4月中旬。最高気温が25℃以上となり、夏日となった。入講式から間もない4月中旬。最高気温が25℃以上となり、夏日となった。

新しい時代が求める農業のあり方を若い世代に学んでもらう横須賀商工会議所の「産農人育成プロジェクト」は今年、4期目に突入した。農業に「経営」の視点を持ち込み、市場を意識しながら作物を育て、加工商品を開発し、流通・販売できる人材を育てていく取り組み。三浦初声高校都市農業科の生徒に門戸を開いている。この4月から意欲と情熱を持ったフレッシュなメンバー7人が新たに加わったことで、既存メンバーの2人も刺激を受けている様子。「6次産業化」をテーマにした今期の活動はさらに加速していきそうだ。

実習が行われていた。少し動くだけで汗が流れ落ちてくる。「主茎の脇から新しい芽がどんどん発生してくる。これを切除していくのが『芽かき』。その後、直立した状態を維持するために支柱に茎を紐で結びつけていくのが『誘引』。光合成を促して1本の茎に成長を集中させるんだよ。優也さんがアドバイスすると、作業の手を止め、ポケットから取り出したメモ帳に書き込みを始めた新メンバーの三上隼馬さん(2年)。「将来は料理人を目指している。そのため素材をしっかり学びたい」。入講式で彼が真剣な眼差しで発した言葉の思い出た。「作物の栽培方法や農業全般の知識を学ぶことで、食材の本質を理解できるようになる。市場に出荷できない規格外野菜の存在を知ること、料理メニューへの有効利用や加工品開発の発想につながる」。商議所で同プロジェクトを担当する小幡純さんは、「産農人」の取り組みの意義をこう話した。農業から広がるビジネスの可能性。若い力を活かして追求する。

「農業を基軸に横須賀経済を発展させる」(平松会頭)



新体制となった産農人メンバーとプロジェクトを支える大人たち

2018年秋にスタートした横須賀商工会議所の「産農人育成プロジェクト」は今年度、新たに2年生7人が加わり計9人で4期目の活動を開始した。4月15日には商議所入り講式が開かれ、平松廣司会頭が「農業を基軸に横須賀経済を若い力で発展させる今までの取り組み」と激励の挨拶。これに答える形で、生徒代表のカルドンカプリエル・ヘンリケナチビダさんが「生産・加工・販売をしっかり学ぶ。「産農人」を通じて、今の農家に求められていることを見つけ出した」と力強く意気込みを語った。今年度、商議所は横須賀三浦地域県政総合センターとも連携し、耕作放棄地の有効活用など農業全体が抱える課題にも踏み込む。産農人の活動をさらに深化(進化)させる考えだ。